

みんなで「協働」生活
中山小通学合宿

7月7日から13日までの1週間、中山小の4～6年生13名が参加して、中山公民館で通学合宿を行いました。

家庭から離れ、地域のボランティアのみなさんに見守られながら生活をする通学合宿では、子どもたちが炊事・洗濯などの生活体験をすることや、近隣のお宅の風呂をお借りする「もらい風呂」を経験することによって、自立する心や助け合う心、感謝する心を育んでいきました。



▲おいしいカレーができました
来年も通学合宿に行こう！



▲「いつもありがとう！」
家族に手紙で感謝の気持ちを伝えました

今年、「時間厳守」「早起き朝ごはん」「自立した生活」を指針として合宿を行いました。初めはなかなか思っていたよりも行動できない児童もありましたが、スタッフの声かけで、少しずつ意識づけられ、指針どおり行動することができました。

名和地区・大山地区では2学期に通学合宿が予定されています。

「みんなの海を
まもろう」
光徳保育所

光徳保育所は、町内の保育所の中で、もともと海の近くに位置し、自然に恵まれています。

園児たちは、毎年海へ出かけて、磯遊びを楽しみます。そこで、みんなが安全で、安心して磯遊びを楽しめるよう、年長児が毎年、海岸の清掃をしています。

7月16日（火）、今年も年長児6人が帽子をかぶり、水筒を持って海へ出かけました。

海岸に着くと、保育士が園児たちに燃えるごみと燃えないごみを分けて集めること、ガラスなど危ないものを見つ



▲「みてみて！こんなに拾ったよ」

けたら、保育士に知らせることなど、注意事項を伝えて、早速作業を行いました。

「これ、燃えるごみ？燃えないごみ？」と、保育士に聞く子。はじめは「これは燃えるごみだよ」と、友達同士で相談しながらごみを拾う姿が見られましたが、ごみを拾ううちに、だんだんと自分で分別できるようになりました。

しばらく作業が続いていると「先生、変な字が書いてあるよ」と言う子がいるので、保育士が「どれどれ、これはお隣の国、韓国から流れてきたペットボトルだね」と答え

ると、その子は「すごいね。こんなところまで流れて来たんだ」と驚いていました。

清掃作業が終わり、みんなでお茶を飲みながら、子どもたちは「みんなが手紙を書いて、ピンにつめて海に流したら韓国へ着くかもしれない」と、夢を広げていました。

子どもたちが真剣にごみを拾い、海岸もきれいになって、みんながさわやかな気持ちになりました。この活動を通じて、子どもたちの心に海を大切しようと思う気持ちが育ってくれることを願っています。